

第46回熊本城学~熊本城の石垣修理を学ぼう~を行いました

飯田丸五階櫓石垣は、南東隅の一列の石のみでかろうじて五階櫓を支えたことから、「奇跡の一本石垣」とも呼ばれました。令和4年から行ってきたこの石垣の積み直し工事も最終盤となり、いよいよ石垣復旧作業は完了を迎えます。

そこで8月15日に開催した第46回熊本城学では、小学生を対象に熊本城の石垣の構造と修理の方法を学んでもらいました。そして最後に石垣の内部に栗石として使用する石に、一人ひとり熊本城復興への熱烈なメッセージを描いてもらいました。これらの石は飯田丸五階櫓石垣の栗石として、9月5日に石垣の中へ丁寧に詰め込まれました。



模型を用いた石垣の構造説明



熊本城復旧への思いが書かれた栗石



栗石にメッセージを記入する様子



飯田丸五階櫓石垣内に詰め込まれた栗石

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣: 973面、約79,000m²
特別史跡熊本城跡の土地面積: 約51,200m²

平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落、膨らみ・緩み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600m ² (全体の29.9%) (うち崩落約8,200m ² (全体の10.3%))
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345m ²
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など



熊本城天守閣企画展示

「奇跡の一本石垣」復活記念 飯田丸五階櫓石垣の調査成果

会期 11月1日㈬～令和6年(2024)4月

場所 熊本城天守閣(大天守)1階 ※熊本城の入園料が必要です

内容 飯田丸五階櫓石垣の復旧工事が令和5年に復旧完了しました。今回の企画展示では、復旧の過程で行った石垣解体調査や、発掘調査によって分かった新事実や出土品を紹介します。



「一本石垣」となった飯田丸五階櫓石垣

熊本城の見どころをスタッフがライブ解説! 『熊本城VR(バーチャルリアリティ)』

わくわくさんの大好評コンテンツ!「熊本城VR」。江戸時代と震災前の熊本城の姿を大迫力の映像で再現し、石垣の迫力や城の役割を臨場感たっぷりに体験できます。このVRを使った、スタッフのライブ解説は必見!熊本城特別見学通路の見どころや、復旧の最新情報をお届けします!お城見学と一緒にぜひご覧ください。

毎日 上映

料金: 入館料 高校生以上300円

小・中学生 100円



開館時間など
お問い合わせ
ホームページまで

お得 共通入園券がオススメです!

2館共通入園券(熊本城・くわいわ)

……高校生以上850円、小・中学生300円

3館共通入園券(熊本城・くわいわ・熊本博物館)

……高校生以上1,100円、小・中学生400円

2023年度熊本博物館秋季企画展「飯田丸五階櫓「奇跡の一本石垣」復旧記念」

清正から受け継いだ名城～加藤忠広と熊本城～

会期 10月14日㈯～12月17日㈰

場所 熊本博物館 特別展示室1・2・3

内 容 本展は、曾未有の地震被害を受けたことにより、はつきりとわかつた別史跡熊本城跡に遺された石垣の構築歴度やその価値、

特に全国的に有名な加藤忠広とその後の熊本城主細川家の狭間

であります!注目されこなされた加藤忠広とその時代の熊本城を語る

資料や焦点をあてます。また、熊本城と肥後国を守った加藤家時

代の支城から出土した瓦を一堂に展示します。

【問合せ・イベント】

くわいわ員指名「熊本城攻略法」石垣の見方・歩き方一

日 時 10月28日㈯午前10時～正午

内 容 熊本博物館で飯田丸五階櫓石垣が見える場所までを

歩いてながら、熊本城の石垣について古学的見方や

最新技術による調査結果

成果を解説します。

詳細はお詳

ホームページまで



熊本博物館

KUMAMOTO CITY MUSEUM

熊本城

～復興に向けて～

令和5年度

秋冬号

熊本城の復興情報

熊本城の復興



西出丸周辺の崩落石材回収工事が始まりました！

西出丸の西側（二の丸公園側）と北側（監物台樹木園側）の石垣は、平成28年の熊本地震で堀側が約140m、曲輪側が部分的に崩落しました。令和5年（2023）7月10日より、石垣の復旧の第一歩として、崩落した石垣の石材回収を行っています。工事は令和6年（2024）3月まで続く予定です。工事の様子は、二の丸広場などからご覧になれます。



西出丸北側石垣の崩落状況(北西から)



①崩落状況の記録作業

回収作業の前に、ドローンを使用して崩落範囲全体を記録しました。さらに、崩落している築石に1石ずつ番号を付けて、崩落位置を正確に測量します。



②崩落した築石の回収
測量を行った後、崩落している築石にワイヤーを掛け、1石ずつクレーンを使って丁寧に回収します。



③築石の回収

回収時には、被災前の石垣の写真を見ながら、築石が本来どこに積まれていたか可能な限り照合します。



④石材工場に仮置き
回収した築石は、近くの石材工場に丁寧に仮置きします。



⑤築石の搬削
表面に見えている築石の回収が終了すると、崩落している築石を土と選別しながら回収します。これによってさらに下に埋まっている崩落した築石が確認できるようになります。

⑥築石回収完了

築石を回収し、下に埋まっていた築石が見えるようになると、再び①～⑤の作業を繰り返します。

以上の作業を繰り返して全ての崩落石材の回収を終えると、崩落した面にモルタルを吹き付けて保護し、その後の石垣復旧工事を待つことになります。



備前堀で発見!! 白川の旧流路

令和4年（2022）10月、崩落した石垣の石材を回収するために、備前堀の堀底に堆積した土砂を取り除きました。その結果、慶長15年（1610）までに直線化された白川の旧流路を確認しました。写真中央付近を境に北側は茶色の土で、南側は黒色の砂（河川の堆積物）です。



旧河川(白川)確認状況(上が北)



慶長10~12年(1605~1607)ごろの城下
※この当時、白川は大きく北へ蛇行し、現在の市役所付近で坪井川と合流した後、熊本城のすぐ南で大きく蛇行して流れていきました。



慶長15~17年(1610~1612)ごろの城下
※当時の文獻等から、慶長15年までに白川を直線化したこと分かります。白川旧流路の大部分は埋め立てられ、一部は坪井川となりました。



国指定重要文化財宇土櫓（五階櫓）解体保存工事

令和5年（2023）3月に堀の中や平左衛門丸に素屋根の基礎を設置し、令和5年6月から素屋根鉄骨の建て方作業に入りました。鉄骨の柱や梁が徐々に宇土櫓を覆っていきます。10月頃からは鉄骨に外壁を設置していくため宇土櫓の姿が見えなくなっていますが、素屋根の東面と南面は外壁部分をネットにし、天守閣から素屋根内部での作業をネット越しに見ることができるよう工夫しています。素屋根は令和5年末頃に完成し、令和6年（2024）からはいよいよ宇土櫓の解体作業に着手していく予定です。



素屋根の完成予定図(西・北面)



天守閣から見た素屋根の完成予定図(東・南面)



素屋根の鉄骨組立状況(令和5年8月30日)